

安心感・信頼感を育む



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みがけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

第37回新指導員学校 指導員の基礎を学ぶ

実践者として



- ・たくさんの「やってあげたいこと」「やれないこと」
- ・力不足をなげく日々
- ・子どもたちが教えてくれた「できないことで、できること」

県連協主催の第37回新指導員学校は6月5日にオンラインで開かれ、県内の採用3年未満の新指導員ら37人が参加しました。

午前中は嘉村祐之全国連協副会長が「学童保育の歴史と情勢」について講義。保護者がつくり、市民運動により広がった学童保育が法制化され、現在に至るまでの歴史を説明。民間企業の参入が相次いでいる現

名古屋からオンラインで講義を行った松尾拓麻指導員

「子ども一人ひとりの声をくみ取って、保育として形にする。安心感と信頼感を育むのが指導員の役割」と語りました。参加者は画面越しに大きくうなずきながら聞き入って

ある。そこへのフォローがとて、大事」と述べ、「子ども一人ひとりの声をくみ取って、保育として形にする。安心感と信頼感を育むのが指導員の役割」と語りました。参加者は画面越しに大きくうなずきながら聞き入って

嘉村先生の「学童は社会になくしてはならない」というお話が非常に心に残った。自分は高学年の対応に悩んでいたもので、松尾先生の実践がとても参考になったし、子どもに寄り添って話を聞いていくことの大切さを感じた。また、先輩指導員の体験談を聞き、専門職としていかに支援していくかという意識がさらに深まった。先輩からのメッセージにも励まされた。失敗してもトライして成長して行きたい。

学童保育はただ子どもを見ていけばよいという時代から、今は子どもの人権を尊重し、より良い環境や質が求められる時代になった。今があるのは現場の想いや声を伝えてきたから。現場の声を届けることの重要性を感じた。松尾先生のお話はベテラン指導員でも同じような悩みがあることと知り、うれしく感じた。子どもの背景にも目を向け、言葉だけでなく内面をくみ取る感度を上げていきたい。

拡充求める署名国会で採択

全国連協の呼びかけで取り組んだ「一人ひとりの声を、国と自治体に届けよう」は155枚、「学童保育の

状態や、コロナ禍の情勢についても解説し、「学童保育は社会を土台から支えるため、なくてはならないもの」という認識が広まった」と述べました。

午後は関畑千春指導員（久慈市・長内学童保育所）と、佐々木由衣指導員（陸前高田市・やどかり学童クラブ）が体験談を発表。子どもとの関わりに悩んだ時、職場のチームワークに救われたこと、子どもと向き合うなかで落ち込んだり、悩んだりすることもありますが、しっかりと向き合い続けていけば成長していくと信じてがんばっている、など自らの体験や仕事に寄せる想いを語りました。

拡充を求める国会請願署名は8934筆を岩手県から提出することができました。署名は国会で採択されました。

紹介議員を引き受けてくれたのは、小沢一郎衆院議員（比例東北）、階猛衆院議員（岩手一区）、木戸口英司参院議員（岩手選挙区）、横沢高德参院議員（同）の4人。

新指導員学校参加者感想

専門職としての意識深まる

内面くみとる 感度上げたい

北上市・北上学童保育所 つくしクラブ・金野 佑太 指導員

滝沢市・菓子学童保育クラブ第二・菅原 侑子 指導員

新会員紹介

▽一般会員 おきらい放課後児童クラブ（大船渡市）